

三二四億円のつかいみち

県民所得の増大めざして

重点・新規事業のかずかず



いくわけてある。
寺本知事は、さきの6月定例県議会における予算説明のぼう頭、下記のように語っている。

38年度予算をみる

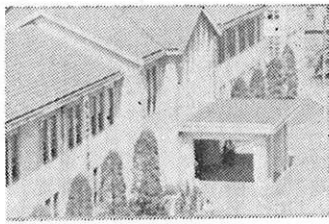
昭和38年度予算は、総額324億1,405万1千円ときまった。
県民所得の増大をめざして、これから一層積極的な施策が展開されて

「…前略…所得の増大により生活水準の向上を図ることは、現代政治の眼目であるといわれております。最新の統計である昭和三十六年県民所得の統計によりますと、県民一人当り所得は、十万七千三百三十九円で、国民所得の一人当り十四万六千三百三十三円に對して、七三・一％にすぎず、本県の県民所得は、全国平均にくらべ、なお著るしく低いといわざるを得ない状況です。

しかしながら、昭和三十六年当初、県民所得増大のため基本的方向を示すものとして「県計画」が策定され、この目標に向って県民各位がご尽力下さった結果、同年度県民所得の総額は一千九百六十七億円、前の年とくらべた伸び率は二・二・四％となっており、三十五年における伸び率一・二・一％よりも大幅に増加すると共に、三十六年における国民所得の伸び率一九・四％をもうわ廻る成果を取めたわけです。
このことは、本県がようやく「上げ潮」に乗って、発展への転換期にさしかかってきたことを示しているものと思えます。
このような時期にあたり、県は今日まで、

- 農業構造改善事業を中心とする農業の近代化
- 県産業の工業化促進のための、道路、港湾等の整備
- 高校急増対策を中心とする人づくり
- 観光産業の開発
- 中小企業の経営改善
- 所得格差に悩む民生安定問題の解決

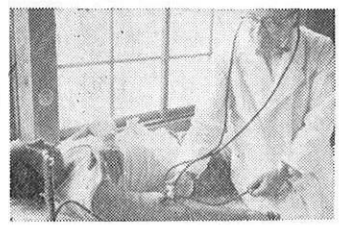
等の諸問題の解決に努力してきましたが、この基本方向を見誤ることなく、ますます積極的にこれらの事業を推進し、県民所得の増大を図っていくことが、今後の県政に課せられた任務であると考え、責任の重大さを痛感すると共に、県民各位とともに、一層の努力を傾注していく考えです。
このような考えのもとに、さきにご議決いただきました骨格予算に肉付けするため、今回ご提案していただきます追加更正予算を編成した次第です。
その追加更正総額四十八億二千九百七十五万五千円現計予算と合計して三百二十四億一千四百五万一千円となっております。
以下その主な事項について、部門別にご説明いたしますと云々……」



総務 37億円

■県庁舎建設と事務の合理化

県庁舎は昭和二十年七月の空襲により焼失したため、昭和二十三年現在地に木造庁舎を建築し、現在に至っているが、雨もりや白蟻の被害がひどく、執務環境は必ずしも良くない状態である。
そこで、県民に親しまれ、執務が能率的に行なわれ、そのうえ建設及び維持管理にできる限り経費のかからない庁舎を建築することとして、設計委託費、事務費、合計一億円を計上した。
この県庁舎の建設にあわせて、事務能率の改善をはかるため、いろいろと検討中であるが、これまで試験的に実施してきたファイリング・システム（文書の集中整理方式）を拡充して、文書事務を合理化し、又税務事務、統計事務、騰写事務の機械化を現社の庁舎においてできる範囲で実施することとした。



衛生 15億円

■無医村地区に巡回診療

無医村地区七十三地区の巡回診療を行ない、病気の早期発見と治療を行なう経費として約百三十万円を計上した。

更に本庁の机や椅子等の備品を、年次計画により鋼製にきり替えることにした。

十月一日開校を目標として、施設調度費及び運営費として約一億一千万円を計上した。
消防学校は、防災対策の重要な第一線機関たる消防力の充実強化を計るため、消防団員の教養訓練を行ない、消防力の向上をめざすものである。

講堂兼体育館三百八十八坪を新しく建設し、女子大学の施設を充実することとして二千万円を計上した。

熊本女子大に体育館

献血制度を普及
現在は阿蘇農業高校生徒の集団献血という善意の行動に、各方面から賞賛が集まり、献血制度についての検討も進んでいる。

現在輸血に使用されている血液の大部分は、供血者から採血された血液である。採血の窓口は熊本市に一カ所あるため、供血者も熊本市周辺の人々で、しかもメンバーが固定化してきているので、新しい供血者、献血者を県下に広く呼びかけて、健康な血を、激増する輸血の需要に應ずるよう提供してもらうこととして、血液型判定やPRなどの経費を計上した。

無料で小児マヒ生ワクチン
昨年に引き続き、小児マヒの対策として、法律で定められているソーク・ワクチンの予防接種のほかに、生後3カ月以上6才未満の乳幼児に、無料で生ワクチンを飲ませることとして、九百九十万円を計上した。

結核と精神病対策
結核については感染性の命令入所患者を前年の月一千九百八十七人を二千二百七人に増加することとし、その年間医療費約四億七千四百万円を計上した。

精神病対策としては、最近増加の傾向にあるので、前年九月百六十五人を一千四百

四十七人に増加して、この年間医療費約三億二千三百万円を計上した。
又最近ふえてきたノイローゼ等の相談にいつでも応じられるよう、熊本市中央保健所に相談所を新設した。

成人病の対策も
高血圧や心臓病及びガンを早めに発見するため、県下六十の会場で巡回診療を実施することとして、三百万円を計上した。

イエバ工駆除を徹底
前年に引き続き、小児マヒや伝染病の主な媒介体であるイエバエを駆除するため、薬剤を撤布したり、改良堆肥舎を作る等、各市町村の協力を得て実施することとした。この経費は九百八十八万円。

松橋療養園に温水プール
松橋療養園には、手足の不自由な児童生徒百二十名が入院しているが、今年から通園バスにより更に四十名の児童が通園して、治療や教育が受けられるようにした。
これらの治療を効果的に行なうため、化学血清研究所の援助により、温水プール（深さ一尺、幅十尺、長さ十二尺）を設置することとし、五百万円を計上した。

家族計画の普及計画
三十五年度から継続実施して、その効果はあがってきたが、今年には新たに新婚夫婦